

テクノロジーとともに、大好きな学校に通う

重度の身体障害があっても、通常学級で友人と一緒に授業を受け、学校に通う喜びを実感している児童がいる。

愛知県の公立小学校に通う鈴木琴実さん(10歳)は、脊髄性筋萎縮症(SMA)という筋力低下や筋委縮がある病気で、現在動かせる部位は両手の親指 数mm程度と足首、目とほほである。自立呼吸が難しく人工呼吸器を常時使用しているため、話すことはできるが、不明瞭で聞き取りにくいことが多い。

琴実さんは現在、特別支援学校や特別支援学級ではなく、通常学級に在籍している。学校では月に100時間、市から支援員と看護師が派遣され、それ以外に琴実さんの母親の浩子さんが車での送り迎えと、学校での琴実さんのサポートを行っている。支援員は学習や移動を含めた校内での活動の補助を行い、看護師は呼吸器の管理などを行い、母親はICT機器のセッティングを中心にサポートを行っている。



通常教室でクラスメイトと一緒に授業を受ける琴実さん

■ エ夫し続ける ICT 環境

学校が大好きで勉強も楽しいという琴実さんだが、考えていることを伝えること、表現することに時間がかかる。そのため学習は、下記の環境を作って行っている。

- ・ タブレット PC 一台を教室に持ち込み、琴実さんの姿勢から見やすいように設置して授業などで使用する。
- ・ タブレット PC では、意思伝達システム「miyasuku EyeCon」を使用。指を動かせる範囲が少なく、押す力も弱い琴実さんでも操作がしやすい風船スイッチを利用。
- ・ 文字は「miyasuku EyeCon」のソフトウェアキーボードをスイッチで操作して Word などに入力し、授業中の学習や宿題を行う。
- ・ マウスカーソルの移動は「miyasuku EyeCon」のスキャン機能を利用。
- ・ 自宅では「miyasuku EyeCon」を視線で操作し、好きな絵を描いたり、ゲームに使用することもある。

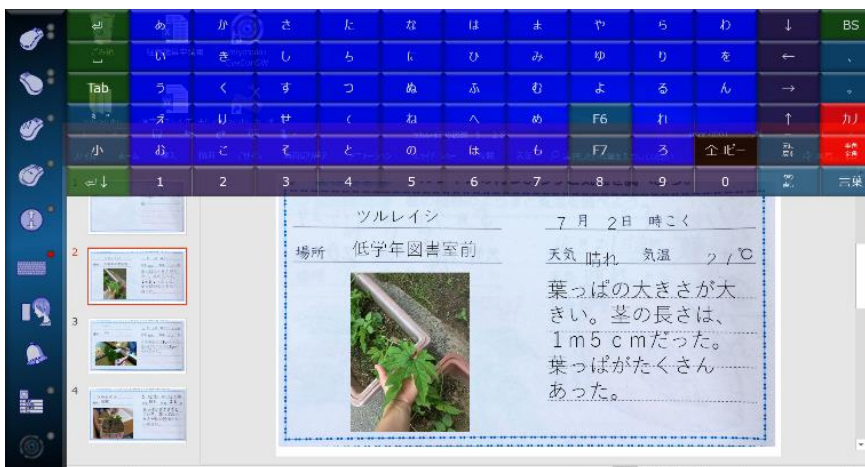


風船スイッチで PC を操作

以前はコミュニケーション専用機器にスイッチで文字を入力して授業に参加していたが、書きたい文章量が多くなってきて、さらに速く多くの文章を書けるようにと工夫がされて、現在の形になっていった。

授業で出される課題についても、必要に応じて工夫をしている。

- ・ 理科の植物の観察では、手書きの観察ノートを書く代わりに、PowerPoint のスライドに、浩子さんや支援員が植物の写真を撮影して挿入し、文章は琴実さんがスイッチを使って書く。
- ・ 書写(習字)の時間は、筆で習字をする代わりに、Word にスイッチで詩を書き写すことで代替している。教室の後ろにはクラスメイトの習字の作品と並んで、琴実さんが書いた詩が掲示されている。
- ・ 国語などで長めの文章の入力が必要で、琴実さんのスイッチでの入力では時間が足りない場合は、琴実さんが口頭で言ったことを支援員が代筆する。
- ・ 算数の図形や表の曲線などは、琴実さんが口頭で言ったことを支援員が代筆する。
- ・ 図工では、琴実さんが視線でお絵かきアプリを使って絵を描いたり、琴実さんが言った形や色を支援員や浩子さんが代筆しながら仕上げたりする。



琴実さんの理科の植物の観察ノート

自宅で宿題を行う時も、試行錯誤しながら、タブレット PC を使って取り組んでいる。

- ・ 漢字の書き取りは、スイッチでタブレット PC に練習したものをプリントアウトして、漢字書き取りノートに貼り付けて提出する。
- ・ 音読の宿題は、デジタル教科書の読み上げ機能を使いながら、教科書の音声にあわせて読み上げる。デジタル教科書を使うことで、琴実さん一人でスイッチを使ってページめくりができる。また教科書の音声にあわせることで、一人でも読み間違いに気づくことができる。

タブレット PC に書き込んでプリントアウトをして提出する、という方法は、テストを受けるときにも使っている。

浩子さん自身、ICT が特別得意だったわけではないようだ。けれど研修会を探して参加したり、インターネットで情報収集をしたり、SMA コミュニティの方々に教えてもらったりし、また、研修会等を浩子さん自身が開き、福祉機器を扱う企業を呼ぶことで繋がりを作ったりして勉強していった。今では勉強会でタブレットの活用方法を教える側になるまでになった。浩子さんは可能な限りやり方を工夫しつつ、琴実さんができることは琴実さん自身で行う、そのことを常に意識しているという。



琴実さんの母 浩子さん

■ 学校側の配慮

課題やテストのプリントアウトに使用しているプリンターは、学校が特別支援教育の予算で、琴実さんのために購入した。「学校としてできることは行いたい」琴実さんが通う小学校の教頭・白井先生は語る。

例えばテストについては学校では以下のような配慮を行っている。

- ・ 琴実さんがタブレット PC でテストをできるように、学校から PDF ファイルを一学期分まとめて、学期の初めに浩子さんに渡す。
- ・ 琴実さんがテストを見たり解答することがしやすいように、レイアウトを変更することやテキストボックスを挿入することを認める。

- ・ タブレット PC を使ったテストの準備ができるように、事前に担任からテストの日を浩子さんに伝える。
- ・ 琴実さんがテストを受ける時間がオーバーしてしまいそうなときは時間延長を認め、別室で続けて試験が受けられるようにする。

施設面では、琴実さんが在籍する教室の隣に控室を確保し、支援員、看護師、浩子さんが休憩や作業をしたり、琴実さんも休むことができるようにしている。また通常、一年生は一階、二年生は二階、という教室の配置になっているが、琴実さんが二年生の時は一年生と二年生の教室を入れ替えて二年生を一階に配置した。しかし、エレベーターや昇降機の設置は難しく、琴実さんが階段の昇降が必要なときは、大人四人でストレッチャーごと持ち上げて移動するなど、安全面も含めて、まだまだ大きな課題がある。

■ 自分ができる方法で夢をかなえる

一時期、太鼓を打つリズムゲームにはまっていたという琴実さん。視線で操作するのだが、打たなければいけないリズムを見ることと、太鼓のボタンを同時に見ることができないため、どうしても太鼓を打つことが遅れてしまい、なかなかいい点数をとることができなかった。そんなとき、浩子さんが「太鼓のリズムを見なくていいように、全て覚えてしまえばいい」とアドバイスをすると、琴実さんはその通りにして、一週間もかからずクリアしてしまったという。

みんなと一緒に授業を受けることが楽しい、という琴実さん。特に、発表をしたり、当番のときにみんなの前で号令をかけることが大好きという積極的な面もある。

彼女の将来の夢は「ケーキ工場を作ること」だそうだ。もともとパティシエになりたい、と思っていたが、ケーキを自分の手で作ることは難しい。自分の手で作ることが難しいならケーキはロボットに作ってもらおう、と考えたそうだ。そのための勉強ならなんでもやりたい、という。きっとその中にはプログラミングも入ってくるだろう。

楽しみながら勉強を頑張って、ロボットでケーキを作る。彼女には、自分ができる方法で自分の夢をかなえる、そんな強さを感じる。



将来の夢は「ケーキ工場をつくること」と語る琴実さん

(年齢等は取材当時のものです)